

# 1. 神戸シルバー大学院の誕生と10年

神戸シルバー大学院 学長 保田 茂

神戸シルバー大学院は、市立神戸市シルバーカレッジ (KSC) 第7期生の皆様が卒業時に立ち上げ、以来、後輩が引き継ぎ 10 年も続いた高齢者の自主学習グループである。カレッジを卒業された方が学ぶ場なので、世の習いに従い、大学院という名称にしようと言うことになった。Silver Graduate School、頭文字を取って、略称 SGS の誕生である。2003 年 4 月のことであった。

「もうしばらく自分たちの面倒をみてほしいのですが、ご無理でしょうか」。KSC の卒業レポート発表を間近にしたサポーター支援日、グループメンバーと話し合いをしているとき、そんな申し出があった。尋ねると、せっかく仲良くなった研究グループを卒業と同時に解散するのは忍びない、もう少し一緒に学習やボランティアを続けたいとのこと、丁度、2003 年 3 月には定年を迎え、以後、就職のお誘いをお断わりし、長年、構想を温めていたわが研究所の活動に着手したいと思っていたので、月 2 回くらいなら時間はとれますよとお答えし、発足となったのである。

2003 年 4 月の第 2 水曜日、阪急六甲にある神戸学生青年センターで入学式と第 1 回目の講義が始まった。KSC で私がレポート作成のお手伝いをした方だけが入学されると思っていたが、どのように PR されたのかは知る由もないが、部屋が一杯になるほどの多数の方が来られ、驚いた記憶がある。最初の講義で、高齢者の皆様が学習を続け、自己変革を通して新たな生き方を追求して下さることは素晴らしいこと、大学院なので、しっかり学習し、立派な研究論文も期待していると申し上げたのであった。

様子見の方も多かったようで、研究論文と聞いておやめになった方も多かったと聞く。やがて人数は半減し、落ち着いた雰囲気の中で月 2 回のペースを守りながら学習が続けられていった。前半は私の講義、後半はメンバーの研究課題の報告で、結構、レベルの高い内容の報告が多く、感心することしきりであった。この学習スタイルは今も続いている。

当初、KSC7 期生の皆様だけ 3 年間お付き合いすればいいと考え、承知したのであったが、一年後には後輩の募集もあり、この先、何年続けるのかなと言う不安が無いわけではなかった。やがて、約束の 3 年間もあっという間に過ぎ、SGS を設立された一期生の卒業を間近にしたころ、ふたたび、「もう少し面倒を見て頂けないか」と言う申し出があった。よくよく勉強好きの皆様である。これだけ長くお付き合いをしていると、とても申し出をお断りすることは出来ない。ならば、もう 3 年間やりませんか、いささか破れかぶれの心境でお引き受けし、教室が一杯になりかけていたので、前期、後期と分けて、あたかも大学に修士課程と博士課程があるように別々の講義をすることにしたのであった。

以来、次々と多士済々なメンバーの入学が続き、とうとう 10 年も続いたのである。この間、沢山の研究発表がなされ、研究論文も 23 報を数え、各地で様々なボランティア活動にも取り組んで頂き、まさに大学院の名に恥じない立派な実績を上げて頂いている。高齢者の生き方を世に示すモデルとして、SGS に連なる皆様の健康と更なる活躍を心から願っている。